

令和元年度 第3～6年 音楽科 授業改善推進プラン

教科	1学期に実施した工夫と課題	課題を受けた今後の改善策
3・4年	<p><b>【課題】</b>            ★互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴き、進んで歌ったり、音色に気を付けて旋律楽器や打楽器を演奏したりできる力を育てたい。            ★音楽から知覚・感受したことをもとに、音楽を工夫しようとする意欲を高めたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの声をよく聴き合って旋律を重ねて歌ったり、奏法や、音色の違いに気付いたりして楽器を演奏できるようにする。</li> <li>・音楽から知覚・感受したことを言葉に表す活動を多く取り入れ、授業の中で共有できるようにする。</li> </ul> <p><b>【工夫】</b>            ☆補助教材の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リコーダーでは、正しい指使いを身に付けさせるために視覚的に分かりやすい教具やワークシートを使用し、正しい指使いを身に付けられるようにした。</li> <li>・ワークシートなどを用い、課題に対する自分の取り組みを把握し、ペア学習や、一人一人が短いフレーズを歌ったり聴き合ったり演奏したりする時間を取り入れた。</li> <li>・知覚・感受を言葉にしやすいように、言葉のヒント集を掲示した。</li> </ul>	<p>E 相互の学び合いと手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ練習では、集中して取り組ませるために、グループの人数の調整・児童同士の人間関係にも配慮する。音が交じってしまったり練習の妨げになることを避けるために、活動場所は、音楽室だけでなく、担任の協力を仰ぎ、教室なども使って行うようにする。</li> </ul> <p>D 補助資料の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌のペアやグループでの学習では、正しい音程が取れるように、CDに録音した教材を使ったり、鍵盤などで音を取ったりしながら練習に取り組むようにする。</li> <li>・感受を引き出すために、視覚的な掲示物を工夫して提示する。</li> </ul>
5・6年	<p><b>【課題】</b>            ★呼吸や発声の仕方を工夫して、自然で無理のない歌い方で歌ったり、知覚・感受したことをもとに、思いや意図をもって歌ったりする力を育てたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現に対する自分の思いや願いをもって歌ったり、表現への意欲をもって歌ったりできるようにする。</li> </ul> <p><b>【工夫】</b>            ☆相互の学び合いと手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自信をもって歌うことができるように丁寧に繰り返し部分練習をするようにした。一斉に歌う、グループで歌う、数人で歌うなどしていく中で、少しずつ声を出すことに抵抗がないようにすすめた。</li> </ul> <p>☆補助教材の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱では、知覚・感受したことをもとに、自分の思いをもてるように、ワークシートに書きこみをし、自分の感じたこと・演奏への思いや工夫を言葉に表す学習を取り入れた。</li> </ul>	<p>B 教材の開発と工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自信をもって歌ったり、自分の声のよさを見つけるために、短いフレーズでの発声練習を行ったりすることで、よりよい歌声になっていくことに気付けるようにする。</li> <li>・長い楽曲の場合には、1時間の中でポイントを絞り、集中して練習に取り組めるようにする。</li> </ul> <p>E 相互の学び合いと工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の取り組みについて、ワークシートを使い、時にはペア活動で聴きあいをしたり、振り返りをしたりすることで、自分自身の課題に気づき、次時への課題をもてるようにする。</li> <li>・器楽では個人差に配慮し、個人に応じた楽譜や課題を用意したり、個別指導をしたりする。</li> </ul>
<p>今年度の成果と課題</p> <p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽会に向け、児童がめあてをもって学習に取り組むことができた。</li> <li>・子供同士の聴き合いの活動によって、伝えるためにどのように表現したら良いかを、児童自身が意識できるようになってきた。</li> <li>・ICT機器で視覚的に課題内容や楽器の演奏方法を示すことで、主体的に学習に取り組める児童が増えた。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱学習では課題のある児童もいるので、個別指導や声かけで、表現意欲を高められるように支援する必要がある。</li> <li>・器楽では、技能的に個別支援が必要な児童は、授業以外でも指導・支援をしていく必要がある。</li> </ul>		